

涌谷町 新水道ビジョン(概要版)

④ 新水道ビジョン策定にあたって

1, 策定の趣旨 (本編 P1)

涌谷町の水道事業をとりまく環境は、少子高齢化社会に伴う人口の減少、安全性やおいしさに対する関心の高まりに加えて、全国で大規模地震や集中豪雨が頻発しており、これに備えて施設の耐震化など給水の安定性を高める対策が社会的に求められています。

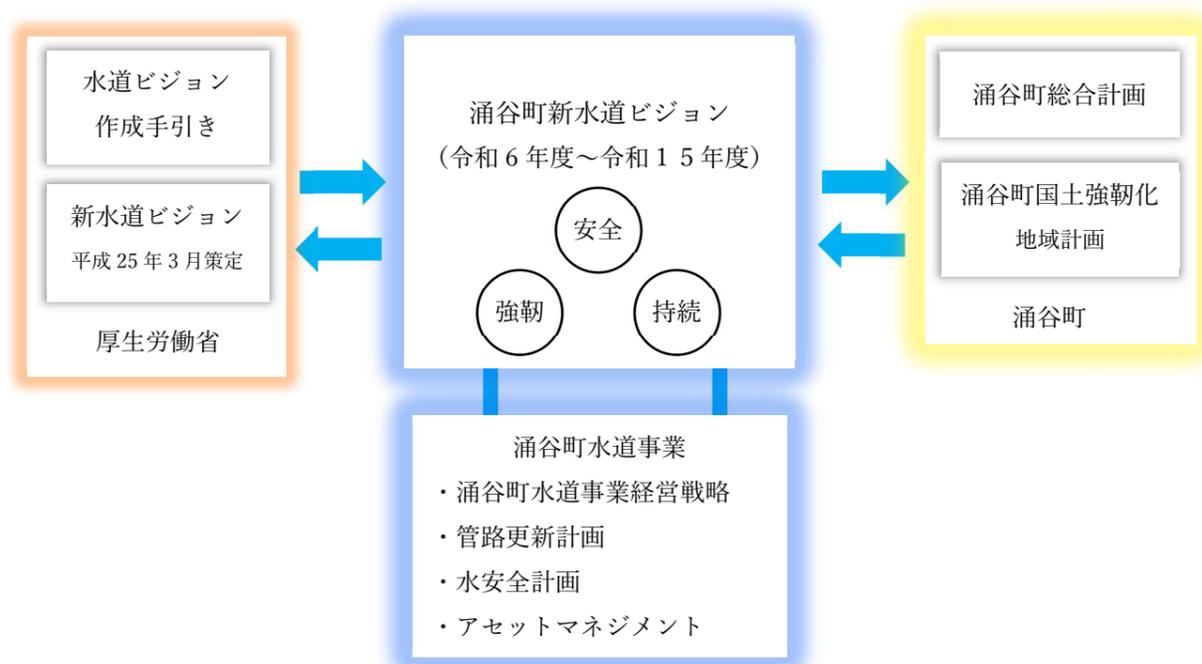
また、昭和40年代の高度経済成長期に整備された施設の老朽化が進み、これらの多くが更新時期を迎える一方、水需要の減少に伴う給水収益の減少傾向が続いており、この傾向は人口の減少とともに継続することが予想されるため、水道事業の経営はより一層厳しさを増すと想定されます。

このようなことを踏まえて現状の分析・評価を行い、改めて長期的視点で水道の将来像・目標を掲げるとともに、50年後、100年後の将来を見据え、その取組みの目指す方向性や実現方策を示すために新たに「涌谷町新水道ビジョン」を策定しました。



2, 水道ビジョンの位置付けと計画期間 (本編 P2)

「涌谷町新水道ビジョン」では、水道事業の現状と課題、顧客ニーズなどを総合的に整理分析するとともに「涌谷町第5次総合計画」など各種計画との整合性を図りながら、将来の方向性を示す基本方針を明確にすることによって、令和6年度から令和15年度までの今後10年間の水道事業経営に関する主要施策を策定し、今後の水道づくりの指針として示します。



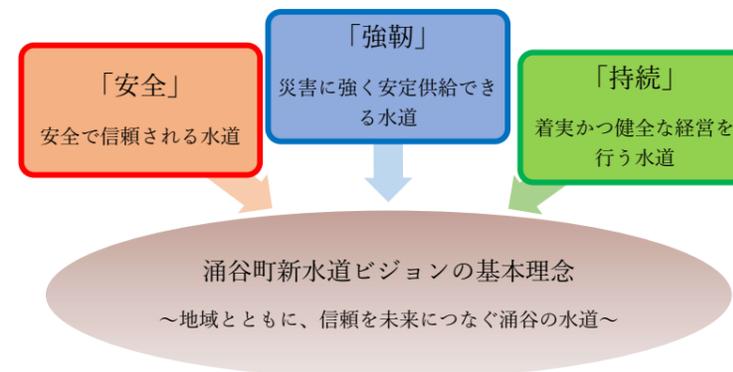
④ 将来像と実現方針

1, 目指すべき将来像と基本方針 (本編 P3~ P5,P19)

利用者にとって望ましい水道とは、時代や環境の変化に的確に対応しつつ、水質基準に適合した水が必要な量で合意的な対価をもって、持続的に受け取ることが可能な水道といえる。そして、このような水道を実現するためには、水道水の安全の確保、確実な給水の確保、供給体制の持続性の確保3つが必要とされる。

新水道ビジョンでは、水道水の安全の確保を「安全」、確実な給水の確保を「強靱」、供給体制の持続性の確保を「持続」と表現し、これら3つの観点から、50年後、100年後の水道の理想像を具体的に示し、これを関係者間で共有することとしている。

涌谷町でも、「地域とともに、信頼を未来につなぐ涌谷の水道」をスローガンに掲げ、新たに「安全」「強靱」「持続」の三つの観点から基本理念を実現するための基本方針・施策目標及び実施方策を設定します。



安全：安全で信頼される水道

「安全で信頼される水道」を実現するために、水源水質の管理を強化するとともに水源水量の確保に取り組み、水質結果の情報を公開し、水源から給水栓までの水質を総合的に管理していきます。

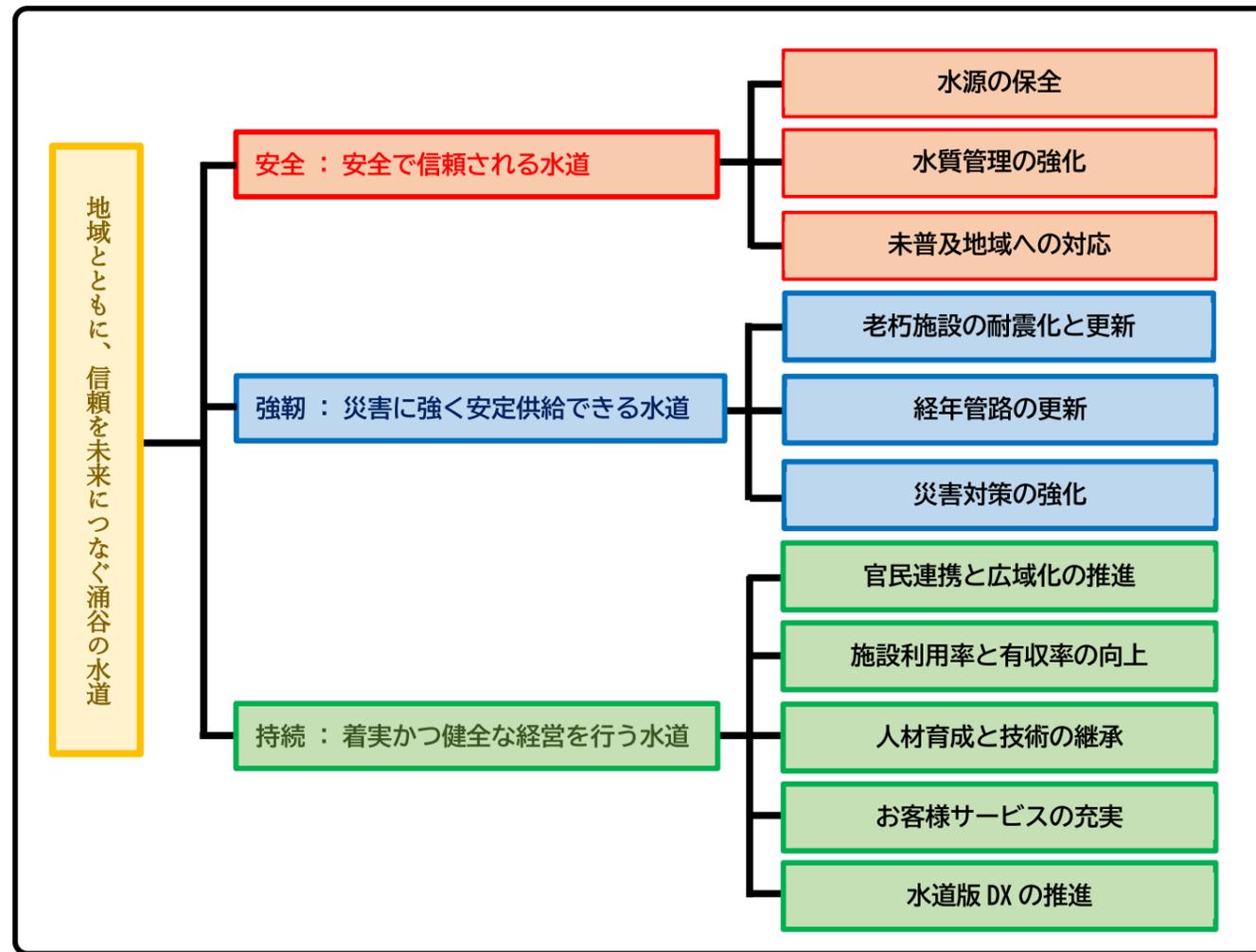
強靱：災害に強く安定供給できる水道

「災害に強く安定供給できる水道」を実現するために、老朽化した施設や管路の更新とともに、耐震化を進めていきます。また、応急給水の確保や災害時の復旧体制を整備し、災害に強い水道施設の実現に取り組みます。

持続：着実かつ健全な経営を行う水道

「着実かつ健全な経営を行う水道」を実現するために、将来にわたり安定した事業運営の継続が求められます。そのため、健全な経営環境を維持しつつ、人材育成と水道サービスの向上を図るとともに、官民連携や事業の広域化・共同化に取り組み経営基盤の強化に取り組みます。

2, 施策体系図(本編 P20)



3, 実施方策の概要(本編 P21~ P29)

●安全で信頼される水道

○水源の保全

福沢浄水場の水源は、深井戸のため水質汚濁のリスクは低いですが今後、水質の保全に関して新たな懸念材料ができた場合には、対策できる体制を整えます。

○水質管理の強化

毎年度策定する「水質検査計画」に基づき、きめ細やく正確な水質検査を行うこととし、検査結果に異常値が出現した際は、関係機関と連携し速やか、かつ適切に対処します。

また、水質の安定性を保つため「水安全計画」に基づき、水質汚染のリスクを監視し、リスク発生の際は、適切かつ迅速に対応します。

○未普及地域への対応

自己水源等で生活されている地域については、経済性、持続性を考慮しつつ、それぞれの実情に応じた対応を検討していきます。

●災害に強く安定供給できる水道

○老朽施設の耐震化と更新

本町の水道施設は、高度成長期に設置した多くの水道管や施設が、今後、対応年数を迎え老朽化していきま。本水道ビジョンでは、中長期的な視点に立った施設整備や、更新需要を見通すとともに、更新事業費の平準化を図るため、アセットマネジメント手法を活用し、老朽化した施設や水道管の適切な更新を計画的に進めます。

○経年管路の更新

老朽化した水道管は、漏水や濁水の発生の原因となります。現在対応年数を超えた水道管の割合は、約 27% となっており増加傾向にあります。安全で安定的な給水を実現するために、管路更新計画に基づき更新を行い、水道管の破損事故や漏水、濁り水などの防止に努めます。

○災害対策の強化

地震や台風などによる災害が発生した場合、施設の被害・断水の程度に合わせて臨機応変に給水車や給水タンク等へ水の補給が出来るよう、体制の整備を行います。

●着実かつ健全な経営を行う水道

○官民連携と広域化の推進

少ない人員で安定的な施設運転が出来るよう水道施設の高機能化を図ると共に、官民連携による事業運営と事業の広域化・共同化の検討を進めます。

○施設利用率と有収率の向上

老朽管路更新の推進と同時に、不要な老朽給水管の廃止及び配水管の整備縮小を推進するなど、漏水防止の予防的対策を行います。また漏水を早期に発見し修理するために、計画的で有効な漏水調査を行います。

○人材の育成と技術の継承

事務事業の効率化により、職員数が減少傾向にあるなか、受け継がれてきた水道の歴史と専門性の高い技術を基本的施策の遂行に活かすためには、職員が専門性や技術力の継承と向上を求められるとともに幅広い観点から事業の持続を追求できる人材が必要になります。そのためより専門的な知識と広い視野を持った経営感覚を持った人材を育成します。

○お客様サービスの充実

使用開始や中止などの各種申請手続きの簡素化により、お客様の利便性向上を図ります。また、お客様の視点に立った事業運営を行うため、水道事業の対する意見や要望を取り入れながら、事業の効率化に活かします。

○水道版 DX の推進

各種手続きのオンライン化によりお客様の利便性向上を図りながら、職員の業務負担軽減を図ります。また、浄水場などの運転監視、管路の維持管理、水道メーターの検針など人による点検や作業が中心となっている業務においては、DX を導入することにより業務を効率化・省力化する仕組みを形成し、組織体制の維持・強化を図るとともに、運転監視などの個々のデータを利活用することにより、年間の水需要や水運用の予測などを立てながら、持続可能な水道経営への取組を推進します。